# 地域との共生

**マテリアリティ**　社会課題の解決とコミュニティとの共生

| 主な活動内容 | 2022年度の活動 | 課題と2023年度の戦略 |
|---|---|---|
| ●医療や科学の研究支援のため、公募研究助成制度の充実<br>●京都文化の保存維持をはじめ、各地域に根差した社会貢献活動の実施<br>●スポーツや読書の機会提供などを通じた子どもたちの教育、精神面への支援活動の実施 | ●2022年度公募研究助成 10件<br>●社外広報誌「京」発刊 4回（季刊）/カレンダー 1回<br>●「はしる図書館 日本新薬きらきら未来ゴー！」22イベント参加 | ●公募研究助成・社会貢献活動の認知度向上と参加者増 |

## 医療や科学研究・地域社会の発展への貢献

日本新薬は、製薬企業として優れた医薬品を世に提供することはもちろん、社会や地域の一員としてその発展に貢献することも果たすべき役割だと考えています。

### ■ 公募研究助成制度

医学・薬学領域のサイエンス発展への貢献を目的に、創立100周年事業の一環として、公募研究助成制度を開始しました。本制度では、若手研究者を支援するために研究テーマを募集し、助成を行っています。

### ■ 京都文化の保存・維持活動

日本新薬では、半世紀以上にわたり、京都の伝統的な技法「型絵染」による染色画作品でカレンダーを毎年制作し、京都の四季折々の風景や風物、歴史ある行事などを紹介しています。また、染色画作品を表紙とした社外広報誌「京」では、寺院、神社などの文化財から京料理や伝統技術、名産品に至るまで、幅広い切り口で奥深い京都の魅力を紹介しています。

## スポーツや読書の機会提供などを通じた子どもたちへの支援

### ■ スポーツを通じた子どもたちへの支援

日本新薬硬式野球部は、長年、市区町村や野球連盟と連携し、小学生・中学生・高校生などさまざまな年齢の球児を対象に、野球教室を企画してきました。近年では京都市近辺で、未就学児向けに運動の楽しさを体感してもらうことを目的とした運動教室を開催しています。2022年11月には、京都市伏見区にある京都聖母学院保育園を訪問し、ティーボール教室などの運動教室を実施しました。2022年12月にわかさスタジアム京都で開催した「日本新薬ちびっ子チャレンジカップ」では、未就学児があまり体験することのない運動能力測定や、食育活動などを行いました。

その他、硬式野球部の活動以外でも、2022年8月には身体機能にハンディキャップを持つ子どもたちを対象に、視線入力アプリケーションを用いたeスポーツ大会をオンラインと現地参加で実施しました。今後も活動を継続し、社会貢献活動を通じて地域社会の発展に貢献していきます。

### ■ 読書の機会提供などを通じた子どもたちへの支援

「日本新薬こども文学賞」は、日本児童文芸家協会の後援を受けて、物語と絵画の2部門で広く作品を募集し、両部門の最優秀作品で絵本を制作する取り組みです。制作した絵本は、小児科医院などの医療機関や公共施設への贈呈などを通じて、広く子どもたちに読まれています。

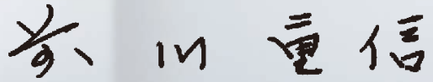
また、ワクワクする読書体験を子どもたちへ運ぶ、「はしる図書館 日本新薬きらきら未来ゴー！」は、当社創立100周年記念事業の一環として、2019年に活動を開始しました。車内には「日本新薬こども文学賞」で制作した絵本など約1,000冊の図書とデジタルブックを搭載し、小学校や特別支援学校などを社員ボランティアとともに訪問しています。



# 会長メッセージ

## 取締役会議長として、ガバナンスのさらなる強化に取り組んでいます。

代表取締役会長



日本新薬は、経営理念である「人々の健康と豊かな生活創りに貢献する」を事業活動の軸とし、目指す姿である「ヘルスケア分野で存在意義のある会社」として成長していくために、サステナビリティへの取り組み強化による企業価値の向上を推進しています。持続可能な社会を実現していくためには、さまざまな社会課題の解決に貢献し社会から信頼されることが必要です。マテリアリティ（重要課題）への対応は、企業にとって必要不可欠かつ経営の根幹をなすものであると考えており、2023年3月には事業環境の変化を踏まえてマテリアリティの見直しを行いました。

また、当社の持続的な成長に欠かせない人財については、従業員一人ひとりが自ら考え行動し、積極的にチャレンジすることで成長し活躍できる環境の整備を進めており、変化に対応できる柔軟かつ強靭な組織の構築を目指しています。環境への対応については、「日本新薬環境基本方針」のもと、$CO_2$の削減に向け太陽光発電設備をはじめとした再生可能エネルギーの導入・拡大を推進しており、希少生物の保護活動を通じた生物多様性の保全にも積極的に取り組んでいます。

これらの取り組みを推進していく上で、経営の透明性を確保し、すべてのステークホルダーへの説明責任を果たすことが経営の最重要課題の一つであると認識しており、私は取締役会議長として、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる充実に向けて継続的に取り組んでいます。日本新薬においては、取締役会をはじめ経営施策検討会や取締役研修・報告会など、さまざまな場を通して取締役同士で建設的な意見交換を行っています。2022年度は研究開発や設備投資、人事制度の改定など、当社の持続的な成長に寄与する案件について多くの議論が行われました。特に社外取締役の方々には、自身の経験や知見、専門性に応じて業務執行取締役との質疑応答を積極的に行うとともに中長期的な経営視点を持って議論いただいており、取締役会の実効性は確保されていると判断しています。

今後も継続してコーポレート・ガバナンスの強化に取り組むとともに、積極的な情報開示やステークホルダーの皆さまとの対話を通じて一層の透明性と信頼性の確保に努めてまいります。これからも変わらぬご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。